

第 13 回 JIN スポーツ外傷・障害勉強会
presented by JIN 整形外科スポーツクリニック
肉離れ Part 1: テニスレッグ (腓腹筋肉離れタイプ II)
膝靭帯損傷 Part 1: MCL 損傷

日時: 2022 年 11 月 19 日(土)17:00~19:30 (11 月 20 日~12 月 4 日まで録画配信)

主催: 一般社団法人 JIN メディカルクラブ

講師: 仁賀定雄 (MD)

《ZOOM》

ZOOM ウェビナーによる Web オンラインで開催します。演者のみが画面に映ります。

受講者は画面に映ることはありません。ご質問は講演中から Q&A にご記入ください。

11 月 20 日~12 月 4 日 質疑応答を含む録画を視聴可能です (巻き戻し、早送り可能です)。

※録画保存、転送、アップロード、使用することは不可とさせていただきます。

《内容》

肉離れの診断は奥脇透先生の尽力で完成した奥脇分類・JISS 分類によって、診断と再発予防が近年目覚ましい発達を遂げています。

しかし 1 時間の講演では肉離れの総論しか解説できないので、一つ一つの筋肉の各論や個々の選手に対して実際にどのように奥脇分類・JISS 分類運用するかを詳しく学ぶことはできません。奥脇分類・JISS 分類運用のノウハウが十分知られていないために、現在も肉離れを再受傷して復帰に難渋し、診断・リハビリの依頼を受けることが少なくありません。

本勉強会では 1 回毎に一つの筋肉をテーマとして、具体的な症例の経過を基に解説します。

並行して膝靭帯損傷について 1 回毎に一つの靭帯について初期治療とリハビリを解説します。

今回は比較的多く遭遇するテニスレッグ (腓腹筋肉離れタイプ II) の初期治療において、初診日から固定なし、杖なしで歩行可能にする方法、友人の引退試合などでプレーしたい選手が受傷後早期に走って試合に参加する方法を動画で提示します。

またテニスレッグ複数回受傷例への対応を提示します。

MCL 損傷について、診断と初期治療、リハビリについて解説します。

参加して下さる皆様の日々の診療、リハビリに少しでもお役に立てれば幸いです。

一般社団法人 JIN メディカルクラブ 仁賀定雄

開場 16:45~

17:00~19:30 講義と実技・質疑応答 (途中休憩 10 分)

- ① 肉離れ Part 1: テニスレッグ (腓腹筋肉離れ)
- ② 膝靭帯損傷 Part 1: MCL 損傷

《参加申込》

参加費: 3,300 円 (税込)

* 領収証はセミナー終了後にメールにて全参加者に送信しますので、必要な方はメールからダウンロードをお願いいたします。

【申込フォーム】

<https://coubic.com/jin-medical/630186>

《参加申込・参加方法に関するお問い合わせ》

社)JIN メディカルクラブ事務局 E-mail : jin.medical.club@gmail.com

《当日緊急時連絡先(※当日 16 時以降のみ使用可)》

社)JIN メディカルクラブ事務局 電話番号 : 070-3205-5347

★過去に開催したオンライン勉強会

(アーカイブで視聴できる準備中です)

2021.3.13 第 6 回 《診断と治療・予防のための問診の重要性》

2021.5.15 第 7 回 《ブレイクスルーした難治性グロインペインの診断とリハビリ・予防》

2021.7.10 第 8 回 《難治性グロインペインのリハビリ(機能不全評価の実技)》

2021.12.18 第 9 回《難治性グロインペインのリハビリ(機能不全改善の実技)》

2022.2.12 第 10 回《難治性グロインペインのリハビリ(パフォーマンス発揮のトレーニングと予防の実技)》

2022.4.30 第 11 回《足関節捻挫の診断と初期治療・リハビリ Part 1》

2022.7.2 第 12 回《足関節捻挫の診断と初期治療・リハビリ Part 2》

★今後の勉強会予定(開催順序は検討中)

《肉離れの診断とリハビリ、手術》 各回で一つの筋肉をテーマとする

《ウロキナーゼによる血腫溶解穿刺療法》 手術しないで血腫を除去する

《PF軟骨損傷の診断とリハビリ》 問診と診断・リハビリ・予防

《疲労骨折の診断とリハビリ》 問診と診断・リハビリ・予防

《膝過伸展損傷の診断とリハビリ》 問診と診断・リハビリ

《ハンス・オフト氏の教え》 チームドクター・トレーナーの役割、チームでのメディカルマネジメント

《LCL 損傷の診断とリハビリ》

《ACL 損傷の診断とリハビリ》

《PCL 損傷の診断とリハビリ》

《スポーツ整形外科で有用な MRI 撮影指示方法》 診断レベルが向上する MRI 撮影方法